

# 10月の主な行事予定 11月行事予定(変更の場合もあります)

日	期	行事内容
1	水	青空：応援練習① 6校時：運動会係会④
2	木	朝：緊急対応訓練 代表委員会 一斉学年下校
3	金	青空：応援練習② 就学時健診 3時間授業 給食後12：35一斉学年下校
4	土	PTA 環境整備作業（下地区）
6	月	2校時：全校練習③ 一斉学年下校
7	火	青空：応援練習③ 6校時：運動会係連携
8	水	昼休み：選手リレー④
9	木	青空：応援練習④
10	金	いのちの日 あいさつ運動 3校時：前期終業式 5校時：運動会準備（5.6年）給食後下校（1～4年）
11	土	運動会＜午前中＞ 学年下校
14	火	振替休業日
15	水	朝：全校朝会 WEBQU・心のアンケート・ 生活習慣アンケート（～17日） 一斉下校
16	木	昼休み：通学班長会・新通学班長班旗講 習会 5校時：通学班集体会 一斉下校
20	月	教育相談週間 6年：薬物乱用防止教室 一斉下校 学習みがき合い週間（～31日） 通学班がんばり週間（～24日）
21	火	クラブ
22	水	1～5年：5時間授業 6年：クラブ委員会写真撮影
23	木	4年：文化の森 家庭教育学級（10：30～12：00 音楽室）
24	金	短縮掃除あり5時間日課 一斉下校
27	月	6年：歴史講談 一斉下校
28	火	委員会 6年：6校時クラブ・委員会写 真撮影
29	水	朝：食育指導 1年：校外学習アクアトト
30	木	短縮掃除なし4時間日課 一斉下校
31	金	昼休み：代表委員

## 【お願い】

### ○環境整備作業について

10月4日（土）は、下地区会員の皆様は、7時までに集合してください。雨天決行となります。詳細は、先日配付しました文書でご確認ください。

### ○資源回収について

11月15日（土）は、第2回資源回収（少雨決行）です。雨天の場合は、翌日に美濃加茂市の清掃活動と重なっているため、中止となります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 高学年として運動会を支える！

運動会で、5、6年生は全校のために一人一人役割を受け持ちます。運動会を支える体験を通して、高学年としての自覚や達成感をもつことができたらと思います。競技とともに係会で頑張る子どもたちの姿もぜひご覧ください。



自分たちで意見を出し、話し合います。

日	期	行事内容
4	火	朝：いのちの日読み聞かせ 一斉下校
5	水	5年：関合宿 一斉下校
6	木	5年：関合宿 一斉下校
7	金	2年：犬山モンキーセンター 一斉下校
10	月	短縮4時間日課 一斉下校
11	火	いのちの日 あいさつ運動 3校時：いのちの集会 いのちの集会後 道徳 一斉下校 学校運営協議会
12	水	観劇会
13	木	朝：ぶんぶん読み聞かせ 6年：歯科指導（1・2校時） 昼休み：いのちの日の遊び
14	金	1年：文化の森
15	土	資源回収（雨天中止・予備日なし）
17	月	ふれ本ふれファミ（～21日）一斉下校） 3校時：1年～3年連れ去り防止訓練
18	火	クラブ
20	木	朝：食育指導 ひまたん：歯科指導
21	金	3年：消防署見学
25	火	委員会
27	木	1年：FCV巡回サッカー教室 5年：ヤマザキマザック
28	金	ひまたん：ハッチー遠足

## 夏休みの宝物が表彰されました

### ＜科学作品展＞

1年 河江 類希さん 【金賞】 ※県に出品  
6年 末廣 夢乃さん 【銀賞】

### ＜社会科作品展＞

2年 木村 栞渚さん 【銀賞】  
3年 林 涼介さん 【銀賞】

### ＜発明工夫展＞

○工作の部 5年生 武田 虎義郎さん【金賞】  
※県に出品

### ＜美濃加茂市読書感想文コンクール＞

3年 富田 未羽さん 【特選】

おめでとうございます！

## ★10月分口座引き落とし額のお知らせ

### ◆PTA会費 600円（前期分）

図書費 600円（長子のみ）

### ◆学級費（引落日は、10日です。）

1年生 3,800円 2年生 3,600円  
3年生 3,400円 4年生 4,200円  
5年生 6,000円 6年生 10,000円

校 報

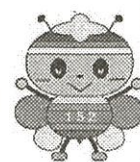
「心豊かにたくましく生きる」蜂屋小学校 <フロム0歳プラン 推進校>



# 輝け 蜂屋っ子

蜂屋小学校HP <http://school.city.minokamo.gifu.jp/hachiya/>

令和7年度  
第7号  
9月25日



## 校歌を最後まで歌ってみます

校長 上田 浩之

学校が再開して1か月が経ちました。9月になっても「暑い！」が続きましたが、ここに来て、やっと猛暑からは解放されそうです。とはいえ、最高気温が30℃以上のいわゆる「真夏日」が今後も数日はあるとのことです。運動会の取り組みもいよいよ本格的に始まりましたので引き続き熱中症には十分配慮します。

2学期制になり2年目になります。終業式を10月10日（金）に行い、前期が終了します。この日には「こどものすがた」を配布します。ご家庭でも、親子でこどものすがたを見ながら、前期に頑張ったこととそうでなかったことや、得意なものと苦手なことを確認して、後期の目標づくりに活用していただきたいです。前期に限ったことではないですが、こどものすがたは、「結果」と捉えることもできますが、むしろ今後の目標づくりとして活用していただけることを願っています。

話は変わり、終業式でも歌う「校歌」についてです。蜂屋小の校歌は、美濃加茂市出身の偉人である坪内逍遙先生に作詞していただき、大正5年（1916年）から歌い継がれています。校歌は蜂屋小の自慢です。その自慢の校歌は5番までありますが（下記参照）、通常は3番までしか歌いません。校歌をフルコーラス歌わないことは全然珍しいことではありませんが、蜂屋小の校歌の3番までは、ひたすら堂上蜂屋柿を讃える内容になっています。逍遙先生は蜂屋小の子どもたちに、校歌を通して「一生懸命学んで、堂上蜂屋柿のように、国の宝・・・社会に貢献できる人になってほしい」というメッセージを送っていると思いますが、逍遙先生が校歌に込められた願いは最後まで歌わないと伝わらないと思います。次に校歌を歌うのは終業式ですが、校歌を最後まで歌ってみます。そして、今後は校歌を歌う際は最後まで斉唱する予定です。校歌を斉唱する機会は年に数回です。自慢の校歌は最後までしっかり歌いたいです。

さて、終業式の翌日には運動会を開催します。前期に成長した姿を見ていただくよい機会だと思います。蜂屋っ子は精一杯がんばりますので、楽しみにしてください。

蜂屋小学校 校歌

作詞：坪内 逍遙  
作曲：田村 虎蔵

一 千歳のむかしに その名高く  
雲居の供御とも なりぬる柿  
蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋

二 名に負う柿こそ 村のほまれ  
今なお天下に たぐいあらす  
蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋

三 ああ 木の實だにも 品よければ  
千年もかわらぬ 国のたから  
蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋

四 ああ 我も人の子 学びはげみ  
宝とならばや 国のために  
蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋

五 奮えや はらから むつみ扶け  
宝とならばや 国のために  
蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋 蜂屋

校歌の作曲者の田村虎蔵氏は、「浦島太郎」「一寸法師」「金太郎」等の唱歌の作曲者でもあります。蜂屋小の校歌は同時の日本を代表する文学者と作曲家によって誕生しました。



# 全国学力・学習状況調査の結果について(蜂屋小)

今年度の全国学力・学習状況調査(全国の6年生児童対象)は、国語・算数・理科の3教科で行われました。その調査における本校の平均正答率は、3教科全て全国・県の前年正答率を大幅に超えるものとなりました。

では、今回の全国学力・学習状況調査では、どんな問題が出されたか、例年通り、国語と算数の2教科について、大幅に正答率を超える結果となった中、正答率が下回った問題や特に正答率が低かった問題の一部について紹介します。

## <国語>【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する問題

- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が必要な内容を答えるようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

【話し合いの様子】

小森さん 質問すること、整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだね。

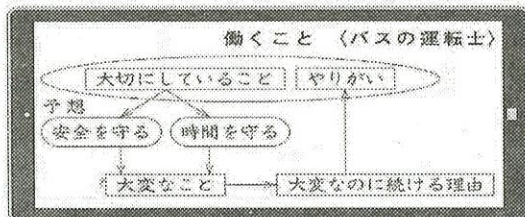
小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切なこと」で話してくれたことをきいて、仕事で大切なことを聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、乗客の安全を大切にしていると思うな。安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだね。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることをやりがいにしている、働くことについて考えるために、インタビューをしています。次の「話し合いの様子」と「話し合いの記録」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

小森さん うん、そうしよう。これまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめよう。この進め方いいかな。



上記の問いは、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるか問う問題です。この問題は、大幅に正答率を超えた結果の中、全国の前年正答率より下回った4問の問いのうち最も全国との差が大きかった問題です。解答類型から見て、誤答の約30%は、町田さんの「安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだね。」という発言を受けて、小森さんが複数の質問を関連付けて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている意図を読み取れていないと考えられます。

上記以外に正答率が低かった問題として、「事実・感想・意見を区別し、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」問題や、「目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付ける」問題でした。どちらも選択式の問いでしたが、どれも正しように感じる選択肢の中で、その微妙な差異を資料から読み取る力に弱さが見られます。

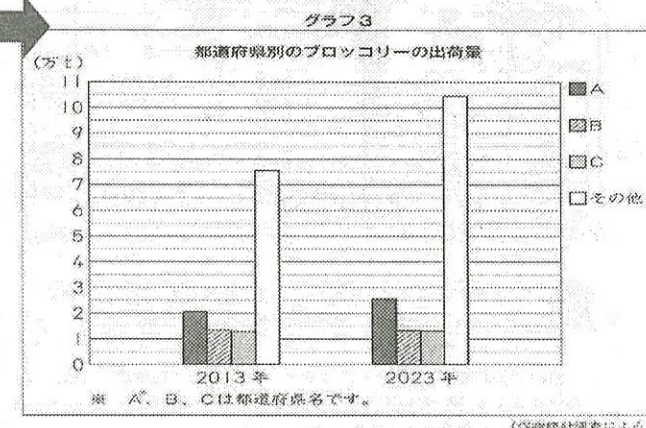
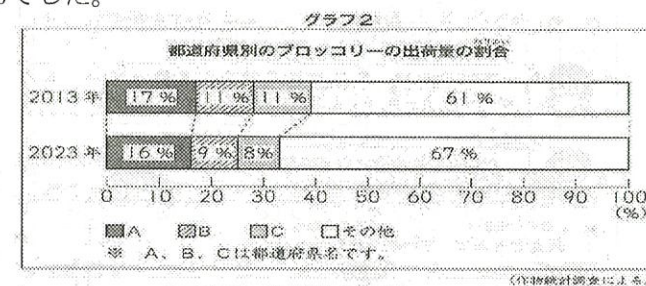
## <算数>都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く

下記の問題は、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断して、その理由を言葉や数を用いて記述する問題です。蜂屋小児童の正答率は、約30%でした。

- (2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。



2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

- ア 2023年は2013年より増えた。  
イ 2023年は2013年より減った。

上記の問題は、2つのことについて解答します。1つは、2023年の出荷量が、2025年よりも増加したかどうか。「グラフ2」を見てしまうと、パーセントが17%から16%に減っているの、「減少」という答えにたどり着きます。しかし、割合ではそうでも、実際の出荷量(万t)は「グラフ3」を見れば増加したことは一目瞭然です。そこに気付けるかどうかという問いでもあります。

まず「イ 減った」と解答した児童は25%でした。残りの75%の児童は「ア 増加した」に解答して正答しているが、選んだわけの記述にその中の3分の2の児童が不正解となっています。つまり、「グラフ3」から増加したことは理解したものの、理由を言語化して記述する力についてはかなり弱さがみられると考えられます。

ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。  
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

左記の問題も正答率が低く、正答率が30%程度にとどまった問題です。

分母が3と4の分数の共通する単位分数が12分の1であることにまずは気付くことができるかがポイントです。3割の正答率にとどまっているものの、単位分数が12分の1であることに気が付いている児童は6割程度。それを数や言葉を使って6割の半分が言語化することができず、正答率が3割となっています。

上記の結果から、国語と算数ともに、根拠をもとにしたり、関係付けたり、文章と図表を結びつけたりして、説明する力が不十分だと考えられます。解答にたどりつくための過程を、要約して伝える力もまだまだ不十分だと考えられます。今後の学習には、ペアやグループで自分の考えを伝え合ったりする、対話的な活動の充実を図るとともに、その対話を通して考えたことを筋道立てて順序よく分かりやすく記述したり、説明したりする活動も必要だと考えられます。